

第 23 回日本健康支援学会年次学術大会 第 9 回日本介護予防・健康づくり学会大会 京都滋賀体育学会第 151 回大会

【大会テーマ】

3 学会合同テーマ「コロナ禍における運動，休養，栄養の重要性」

【大会長】

第 23 回日本健康支援学会年次学術大会 竹田 正樹（同志社大学スポーツ健康科学部 教授）

第 9 回日本介護予防・健康づくり学会大会 坂本 静男（駿河台大学スポーツ科学部 教授）

京都滋賀体育学会第 151 回大会 野村 照夫（京都工芸繊維大学基盤科学系 教授）

【会期】

2022 年 3 月 5 日（土）～3 月 6 日（日）

【会場】

オンライン開催（Zoom 利用）

ご挨拶

第 23 回日本健康支援学会年次学術大会

大会長 竹田 正樹

同志社大学スポーツ健康科学部教授



昨年度は第 22 回日本健康支援学会年次学術大会および第 8 回日本介護予防・健康づくり学会大会の合同学会が開催されましたが、本年度は京都滋賀体育学会第 151 回大会も加えて頂き、3 つの合同学会を開催させて頂くこととなりました。日本健康支援学会と日本介護予防・健康づくり学会に京都滋賀体育学会が加わることはイレギュラーな感じは否めません。しかしながら、元々予定されていた日程が全く同一であったこと、また私が健康支援学会の大会長を仰せつかりつつ、京都滋賀体育学会の常務理事として学会運営にも携わらなければならない故、健康支援学会と日本介護予防・健康づくり学会の理事会の皆様にお諮りし、3 つの学会を合同で開催させて頂くことのできることを承りました。両学会の理事の先生方には、厚いご理解を頂きましたこと、深く感謝申し上げます。3 つの学会の会員様には、運動・スポーツと健康に関するテーマを幅広く捉えることで、より横断的に情報共有を図って頂きたいと思います。体育学会で扱われるテーマであるスポーツ競技力の向上、スポーツの指導方法、学校現場における体育指導や保健指導、体育の原理原則といった研究は、「健康支援」や「健康づくり」に極めて深く結びついているはずで

大会実行委員会および事務局は、3 つの学会の大会長と事務局、そして同志社大学スポーツ健康科学部の任意の教員内に置かせて頂きました。事務局設置場所においては、第 9 回日本介護予防・健康づくり学会大会長坂本静男先生および京都滋賀体育学会第 151 回大会長野村照夫先生のご理解を頂きました。両先生方のご厚情にお礼申し上げます。

学会は学術的情報発信の場であるだけでなく、多くの人の出会いや親交を深める場でもあります。当初、対面形式の開催を考え、3 つの学会が合同で開催できるだけの会場を同志社大学で確保しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染の収束は一向に見通しが立たず、オンライン開催が妥当であると判断しました。この点、ご理解頂きますようお願い致します。オンライン学会の開催方法に関しましては多くの議論があるかと思ひます。本年度は、より「学会らしさ」を出すために基本的にリアルタイムでの開催としました。2022 年 3 月 5 日（土）、6 日（日）の 2 日間となります。慣れない運営のため、不手際が生じるかもしれません。そこは挑戦者の気持ちで大会実行委員会一同、可能な限りスムーズな運営に尽力する所存です。今からご予定頂き、オンライン上にて相賀の皆様にお会いできることを心より楽しみにしております。

ご挨拶

第9回日本介護予防・健康づくり学会大会

大会長 坂本 静男

駿河台大学スポーツ科学部教授



このたび、第9回日本介護予防・健康づくり学会を第23回日本健康支援学会および第151回京都滋賀体育学会との3学会合同開催にて2022年3月5日（土）・6日（日）の2日間、同志社大学を事務局本部としてオンライン開催することになりました。

当初は同志社大学キャンパスを使用させて頂いて通常のオンサイトでの学会開催を望んでおりましたが、コロナ禍が収束するどころかますます感染蔓延化し、重症化するに至り、誠に残念ながらオンライン開催することと相成りました。前述しましたように3学会合同開催となった利点を生かして、学際的な学会になるように3学会合同テーマは「コロナ禍における運動、休養、栄養の重要性」と決定しました。

特に日本介護予防・健康づくり学会のシンポジウムは以下の考えのもと、2つのシンポジウムを企画しました。体育とは、いわゆる単なる教育科目の1つではなく精神的な面も含めた身体を育てることと考え、最近のCOVID-19禍を経験すると介護予防、健康づくりとは広義の体力づくり、特に抵抗力や免疫力をつけることであり、強く考えざるを得なくなりました。それゆえ successful aging を獲得するためには、運動・栄養・休養 + α の SDGs（持続可能な開発目標）を作成し、その目標に向けて実践、努力していくことが必要だと考えました（シンポジウム：successful aging 獲得のための SDGs）。さらにこれらのことを実現していくためには、1つの職種だけの努力では不可能であり、運動指導、栄養指導、休養、介護支援、歯科衛生などの専門領域の方々の共同作業によってはじめて実現可能になると考えました（シンポジウム：運動習慣を継続させるためには）。各シンポジストは、筋生理学、循環器学、脂質・糖質代謝学、栄養学、理学療法学、体育科学、健康科学のスペシャリストであり、興味深い内容の講演を視聴できるかと思います。また新進気鋭の研究者の一般口演やポスター発表を拝聴できるかと思います。何卒多くの皆様の学会参加を御願ひする次第です。

ご挨拶

京都滋賀体育学会第 151 回大会
大会長 野村 照夫
京都工芸繊維大学基盤科学系教授



京都滋賀体育学会第 151 回大会が、2022 年 3 月 5 日（土）～6 日（日）に、同志社大学のご尽力によって、第 23 回 日本健康支援学会年次学術大会および第 9 回日本介護予防・健康づくり学会大会との 3 学会合同でオンライン開催される運びとなりました。昨年度の単独オンライン開催も含めコロナ禍における学会大会の開催は、新たな開催方法への挑戦契機となりました。

本大会のテーマ「コロナ禍における運動、休養、栄養の重要性」をそれぞれの学会の専門的視点から捉えることによって、気づきの共有、新たな見方、斬新なアイデアの創成など単独では気づかなかった議論の広がりが見られるものと期待しています。一月三舟（いちげつさんしゅう）一つの月でも、止まっている舟からは止まった月が、北へ行く舟からは北へ動く月が、南へいく舟からは南に動く月が見えるという教え（澄観、華嚴経疏演義鈔）のように、一つの研究課題について、見方を変えて種々に考察することが、学問の深化や広がりにつながることでしょう。特に、複雑で多様化する社会における、スポーツや健康への問題解決アプローチは、多領域の連携、多元的プロジェクト、学際的融合などが求められますので、この 3 学会合同が学問の壁を上る新たなホールド（ボルダリングの突起物）となりますことを望みます。

オンライン合同学会大会のメリットは、1 件の参加申し込みで、当該 3 学会の学術プログラムや研究発表を享受できます。会場の広さや収容人数に左右されず自由に意見交換できます。遠方にいながら聴講や質疑応答ができます。演題申し込みや発表資料提出をオンライン上で行えます。デメリットは、3 学会の参加条件を揃える必要があります。参加者のインターネット環境により満足度が異なる場合があります。ノンバーバル・コミュニケーションが十分交わせない。メリットを活かし、デメリットの対策や軽減等によって有効な学術集会の手段として醸成できるものと信じています。想定外のトラブルや新たな課題も見つかることと思いますが、参加者の皆様のご協力で素晴らしい学会大会に育てて頂けると幸いです。

多くの先生方のご参加により、学会を超えた議論に発展し、実り多い大会になりますことを期待しています。

大会概要

1. 大会名称

第 23 回日本健康支援学会年次学術大会・第 9 回日本介護予防・健康づくり学会大会・
京都滋賀体育学会第 151 回大会

2. 大会長

第 23 回日本健康支援学会年次学術大会

竹田 正樹（同志社大学スポーツ健康科学部 教授）

第 9 回日本介護予防・健康づくり学会大会

坂本 静男（駿河台大学スポーツ科学部 教授）

京都滋賀体育学会第 151 回大会

野村 照夫（京都工芸繊維大学基盤科学系 教授）

3. 会期

2022 年 3 月 5 日（土）～3 月 6 日（日）

4. 会場

オンライン開催（Zoom 利用）

5. テーマ

3 学会合同テーマ「コロナ禍における運動、休養、栄養の重要性」

6. 大会ホームページ

<https://www.jshp23-jshpsa9-ksspehss151.jp/>

組織委員会

◆ 大会長 ◆

第 23 回日本健康支援学会年次学術大会

竹田 正樹（同志社大学スポーツ健康科学部 教授）

第 9 回日本介護予防・健康づくり学会大会

坂本 静男（駿河台大学スポーツ科学部 教授）

京都滋賀体育学会第 151 回大会

野村 照夫（京都工芸繊維大学基盤科学系 教授）

◆ 事務局長 ◆

高木 俊（同志社大学スポーツ健康科学部 助教）

◆ 組織委員 ◆ （五十音順）

海老根 直之（同志社大学スポーツ健康科学部 准教授）

上林 清孝（同志社大学スポーツ健康科学部 准教授）

来田 宣幸（京都工芸繊維大学基盤科学系 教授）

高倉 久志（同志社大学スポーツ健康科学部 助教）

田邊 解（筑波大学体育系 准教授）

参加要項

1. 開催形式

Web 開催

2. 会期

ライブ配信: 2022 年 3 月 5 日 (土) ~6 日 (日)

ポスター-PDF 閲覧期間: 2022 年 3 月 5 日 (土) ~13 日 (日)

3. 参加申込み

大会ホームページよりお申し込みください。参加申し込みは、2022 年 2 月 22 日 (火) までになりますのでご注意ください。

大会ホームページ: <https://www.jsHP23-jshpsa9-ksspehss151.jp/registration.html>

4. 当日受付

Web 開催のため、当日受付はございません。大会の前日までに大会 Web 開催サイトにログインするためのパスワード等を送付いたします。大会ホームページ上のリンクバナーより大会 Web 開催サイトにアクセスしていただき、大会にご参加ください。ライブ配信 (Zoom) にご参加いただくための URL は Web 開催サイト上に掲載いたします。Zoom ログインの際には参加登録した登録名でご参加ください。

5. 大会参加に関する注意事項

<ライブ配信>

ライブ配信ツールは Zoom を使用いたします。事前にアプリのダウンロードをお願い致します。既にダウンロードされている方は、最新版にアップデート頂きますようよろしくお願いいたします。**視聴時にはカメラ・マイクをオフ（ミュート）**にしていただき、ご発言の際には挙手機能をご利用の上、カメラ・マイクをオンにしてください。

<視聴環境>

安定したインターネット回線（有線 LAN 接続推奨）、視聴する端末（PC やタブレットなど）が必要です。また、視聴は常に一つの端末でのみ参加可能です。他の端末で引き続き参加する場合には、現在参加中の端末でログアウトしてから、他の端末でログインしなおしてください。

<禁止事項>

本学会で配信されているすべてのデータの記録、収録、録音は固くお断りいたします。

6. 総会出席について

学会員の方はご出席ください。大会 Web 開催サイトに参加用 URL (Zoom) を掲載予定です。

7. 抄録集

日本健康支援学会の学会員には予め抄録集をお送りしておりますが、日本健康支援学会学会員以外の方で冊子を希望される場合は 1 冊 1,000 円にて販売いたします。ご希望の方は日本健康支援学会事務局（「8. 学会新規入会に関するお問い合わせ」参照）まで事前にご連絡ください。また、大会ホームページ上にも公開を予定しておりますので、参加者はそちらでもご確認いただけます。

8. 学会新規入会に関するお問い合わせ

日本健康支援学会事務局

E-mail : kenkousien.info@gmail.com

学会 HP: <http://jshp.umin.jp/contact.html#b>

日本介護予防・健康づくり学会事務局

E-mail: jshpsa.info@gmail.com

学会 HP: <https://sites.google.com/view/kaigoyobo-kenkozukuri/お問い合わせ>

京都滋賀体育学会事務局

E-mail: info@kyoto-taiiku.com

学会 HP: <http://www.kyoto-taiiku.com/admission.html>

演者の方へ

1 講演・シンポジウム等について

配信ツールは Zoom を利用します。セッション開始の 10 分前には Zoom にご参加いただけますようお願い致します。なお、**発表用ファイルはご自身で操作して頂きます。**

ライブ配信に参加される際には安定したインターネット環境（有線 LAN 推奨）、接続端末（PC・タブレット等、場合によってはマイクやヘッドセット）が必要です。また、**発表時にはカメラをオンにしてください。**お顔が明るく映る場所、静かな場所でご参加をお願い致します。

2 一般発表について（口頭発表）

<発表時間・進行>

セッション開始の 10 分前には Zoom の指定ミーティングルーム（URL）に参加いただけますようお願い致します。発表時間は 7 分、質疑応答は 3 分です。時間経過の合図は発表終了の 1 分前にのみお知らせします。なお、**発表用ファイルはご自身で操作してください。**発表にて動画を利用される場合、フルハイビジョン等高画質の動画の利用はお控えください（正しく共有できない場合があります）。万が一通信トラブル等により発表が困難になった場合、セッション内で発表順の変更をいたしますので座長の指示に従ってください。それでも解決できない場合には、事前（3 月 2 日まで）にご提出いただいた PDF を画面共有させていただきます。

3 一般発表について（ポスター発表）

<ポスター掲示期間>

事前（2 月 14 日まで）にご提出いただいたポスター PDF を大会 Web サイトに 3 月 5 日（土）～13 日（日）まで掲示いたします。

<発表時間・進行>

発表形式は自由討論です。質疑応答は、大会 Web 開催サイト内の掲示板機能を利用してください。掲示板機能は 3 月 5 日（土）～13 日（日）まで利用可能です。演者は定期的に質問の有無をご確認の上、公開期間内に掲示板機能によりご回答ください。また、ポスター掲示期間終了間際の質問には演者が応答できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

座長の方へ

配信ツールは Zoom を利用します。座長の方は、ご担当のセッションが始まる **10 分前までに Zoom にご参加ください**。ライブ配信に参加される際には安定したインターネット環境（有線 LAN 推奨）、接続端末（PC・タブレット等、場合によってはマイクやヘッドセット）が必要です。また、お顔が明るく映る場所、静かな場所でご参加をお願い致します。

進行は座長に一任いたしますが、ご挨拶やご発表、質疑応答、討論を含め、指定の時間内に収まるようにご配慮をお願い致します。通信トラブルによるセッション内の発表順の変更も一任いたします。一般発表（口頭発表）にて、発表順を変更しても解決しない場合には、大会事務局にて発表資料（PDF）を画面共有させていただきます。なお、一般口頭発表の時間は、1 演題につき発表時間 7 分、質疑応答 3 分の合計 10 分となります。発表終了の 1 分前に口頭にて時間経過をお伝えくださいますよう、よろしくお願い致します。

大会スケジュール

3月4日		学会大会 1 日目(3月5日)		学会大会 2 日目(3月6日)	
Zoom会場		Zoom会場	ポスター会場	Zoom会場	ポスター会場
8:30 -		8:30 -		8:30 -	
9:00 -		9:00 -		9:00 -	
9:30 -		9:30 -	開会挨拶 (9:10-9:25)	9:30 -	基調講演 2 (9:00-9:30)
10:00 -		10:00 -	基調講演 1 (9:25-10:05)	9:30 -	大会長講演 (9:30-10:00)
10:30 -		10:30 -		10:00 -	
11:00 -		11:00 -	シンポジウム1 (10:20-11:50)	10:30 -	シンポジウム3 (10:05-11:35)
11:30 -		11:30 -		11:00 -	
12:00 -		12:00 -		11:30 -	
12:30 -		12:30 -	日本健康支援学会理事会 京都滋賀体育学会理事会 (12:00-12:45)	12:00 -	総会 (学会別) (11:40-12:20)
13:00 -		13:00 -		12:30 -	日本健康支援学会 編集委員会 (12:20-13:10)
13:30 -		13:30 -	口頭発表1 (13:00-13:50)	13:00 -	
14:00 -		14:00 -		13:30 -	口頭発表5 (13:20-14:00)
14:30 -	日本介護予防・健康 づくり学会学術委員会	14:30 -	口頭発表2 (14:00-15:00)	14:00 -	
15:00 -	日本介護予防・健康 づくり学会 理事会 (14:30-15:30)	15:00 -		14:30 -	口頭発表6 (14:10-14:50)
15:30 -		15:30 -	口頭発表3 (15:10-15:50)	15:00 -	
16:00 -		16:00 -		15:30 -	シンポジウム4 (15:00-16:30)
16:30 -		16:30 -	口頭発表4 (16:00-16:50)	16:00 -	
17:00 -		17:00 -		16:30 -	
17:30 -		17:30 -	シンポジウム2 (17:00-18:30)	17:00 -	シンポジウム5 (16:40-18:10)
18:00 -		18:00 -		17:30 -	
18:30 -		18:30 -		18:00 -	
				18:30 -	表彰・閉会挨拶 (18:20-)

ポスター発表
(Web掲示)

ポスター発表
(Web掲示)

プログラム

(敬称略)

3月4日(金) 大会前日

- 日本介護予防・健康づくり学会学術委員会 Zoom 会場 14:00-14:30
- 日本介護予防・健康づくり学会理事会 Zoom 会場 14:30-15:30

3月5日(土)大会1日目

(氏名敬称略)

- 開会挨拶 Zoom会場 9:10-9:25

- 基調講演1 Zoom会場 9:25-10:05

「健康管理に必要な生活習慣改善と中庸の考えを今一度振り返る」

演者：坂本 静男（駿河台大学）

座長：田中 喜代次（筑波大学）

- シンポジウム1 Zoom会場 10:20-11:50

「運動継続やサルコペニア予防の面から運動条件を考える」

座長：宮下 政司（早稲田大学）・高杉 紳一郎（佐賀整肢学園）・岸本 裕歩（九州大学）

演者：熊原 秀晃（中村学園大学）

「歩数・強度に基づく介入による日常身体活動の質への影響性」

飛奈 卓郎（長崎県立大学）

「ランナーズ・ハイが発現する運動条件の探索」

内因性カンナビノイドと主観的運動強度の関係」

川上 諒子（早稲田大学）

「サルコペニア予防の身体活動疫学と現場でのサルコペニア簡易評価」

- 日本健康支援学会理事会 Zoom会場 12:00-12:45

- 京都滋賀体育学会理事会 Zoom会場 12:00-12:45

- 口頭発表1 Zoom会場 13:00-13:50

座長：大藏 倫博（筑波大学）

- 口頭発表2 Zoom会場 14:00-15:00

座長：甲斐 裕子（財団法人明治安田厚生事業団）

■ 口頭発表3 Zoom会場 15:10-15:50

座長：佃 文子（びわこ成蹊スポーツ大学）

■ 口頭発表4 Zoom会場 16:00-16:50

座長：長積 仁（立命館大学）

■ シンポジウム2 Zoom会場 17:00-18:30

「運動習慣を継続させるためには」

座長：坂本 静男（駿河台大学）

演者：牧田 茂（埼玉医科大学）

「運動習慣を継続させるためには一循環運動学から」

木村 穰（関西医科大学）

調整中

久野 譜也（筑波大学）

「運動習慣を継続できるまちづくり」

小関 信行（日本クアオルト研究機構）

「クアオルト健康ウォーキングから」

■ ポスター発表 ポスター会場 終日

3月6日(日) 大会2日目

(氏名敬称略)

■ 基調講演2 Zoom会場 9:00-9:30

「京都滋賀体育学会の取り組み—3学会合同開催を記念して—」

演者：芳田 哲也（京都工芸繊維大学）

座長：来田 宣幸（京都工芸繊維大学）・山下 直之（京都工芸繊維大学）

■ 大会長講演 Zoom会場 9:30-10:00

「ルディックウォーキングは下半身の関節間力を低減させエネルギー消費量を増大させるのか？」

演者：竹田 正樹（同志社大学）

座長：遠藤 洋志（琉球大学）

■ シンポジウム3 Zoom会場 10:05-11:35

「successful aging 獲得のための SDGs」

座長：坂本 静男（駿河台大学）

演者：秋本 崇之（早稲田大学）

「筋生物学から」

前田 清司（早稲田大学）

「動脈を若返らせる運動プログラム」

田端 宏樹（順天堂大学）

「健康寿命延伸に向けた糖・脂質代謝と骨格筋機能」

伊藤 智子（東京家政大学）

「栄養学から：食事全体を評価した食事パターンと健康との関連」

浦辺 幸夫（広島大学）

「Successful aging 獲得のための SDGs」

- 日本健康支援学会総会 Zoom 会場 11:40-12:20
- 日本介護予防・健康づくり学会総会 Zoom 会場 11:40-12:20
- 京都滋賀体育学会総会 Zoom 会場 11:40-12:20

- 日本健康支援学会編集委員会 Zoom 会場 12:20-13:10

- 口頭発表 5 Zoom 会場 13:20-14:00
座長：田邊 解（筑波大学）

- 口頭発表 6 Zoom 会場 14:10-14:50
座長：辻 大士（筑波大学）

- シンポジウム 4 Zoom 会場 15:00-16:30
「高齢者の社会的孤立予防のための健康支援」
座長：西中川 まき（慶応義塾大学）・ 薛 載勲 «ソル ジェフ»（筑波大学）
演者：近藤 尚己（京都大学）
 - 「社会的処方」の試みを活かした孤独・孤立予防の推進
辻 大士（筑波大学）
 - 「日英比較による、高齢者の社会的孤立の課題と健康支援」
中沢 豊（松戸市福祉長寿部）
 - 「松戸プロジェクトにおける社会的孤立予防に向けた地域と行政の協働」
藤井 啓介（関西医療大学）
 - 「作業機能障害に着目した社会的孤立予防」

■ シンポジウム 5 Zoom 会場 16:40-18:10

「地域における健康を巡る諸連携」

座長：若原 卓（同志社大学）・満石 寿（京都先端科学大学）

演者：竹田 正樹（同志社大学）

「市域市民と大学の連携：京たなべ・同志社スポーツクラブ」

小山 宏之（京都教育大学）

「京都教育大学地域スポーツクラブの活動の現状とこれから

～大学を拠点にした総合型地域スポーツクラブとして～」

森原 徹（丸太町リハビリテーションクリニック）

「地域と医療機関の連携：認定 NPO 法人京都運動器障害予防研究会」

松井 知之（丸太町リハビリテーションクリニック）

「青少年における運動器障害へのサポート」

野村 照夫（京都工芸繊維大学）

「地域教育機関と大学の連携：小学校危機管理」

吉田 司（国立健康・栄養研究所）

「京都府亀岡市における健康づくりの連携：亀岡スタディ」

■ ポスター発表 ポスター会場 終日

■ 表彰・閉会挨拶 Zoom 会場 18:20-

口頭発表2 (O-2-1~6) 3月5日(土) 14:00-15:00

座長：甲斐 裕子 (財団法人明治安田厚生事業団)

演題 番号	演題名	発表者	所属
O-2-1	歩行・低速度ジョギングによる座位行動ブレイクが健常若年成人の食後血糖値に及ぼす急性影響	阿具根 美和	中村学園大学大学院
O-2-2	動機づけ支援を受けた壮年期就労者が運動習慣を獲得する要因の探索的分析	WAN JIAWEI	筑波大学大学院
O-2-3	転倒リスクが目標指向型の二足立位の制御に与える影響の解明	藤村 泰成	京都大学大学院
O-2-4	ライフコースアプローチの観点からみた学生時代の運動経験と要介護発生との関連	林 滄勲	筑波大学
O-2-5	肥満者の体重変化に対するウェブベース介入の効果 — システマティックレビューとメタ解析 —	SHI YUTONG	筑波大学大学院
O-2-6	月経随伴症状の発現および重症度の関連要因に関する システマティックレビューとメタアナリシス	三ツ橋 利彩	筑波大学大学院

口頭発表3 (O-3-1~4) 3月5日(土) 15:10-15:50

座長: 佃 文子 (びわこ成蹊スポーツ大学)

口頭発表4 (O-4-1~5) 3月5日(土) 16:00-16:50

座長: 長積 仁 (立命館大学)

演題番号	演題名	発表者	所属
O-3-1	男子高校生における学校運動部活動の早期離脱の関連要因	神藤 隆志	筑波大学
O-3-2	新奇的な運動技能課題における複数の関節運動の学習過程	犬走 渚	京都大学 大学院
O-3-3	大学女子長距離選手の食事摂取状況と疲労骨折との関係	藤田 彩有里	京都光華 女子大学
O-3-4	野球ボールの種類の違いが投球速度と回転数に及ぼす影響	前田 遼太郎	同志社大学
演題番号	演題名	発表者	所属
O-4-1	住民主体の通いの場の立ち上げ要因の検討: 目標の魅力と援助要請スタイルが目標コミットメントに与える影響について	嶋 晴菜	立命館大学 大学院
O-4-2	「見守り・交流アプリ」の開発・活用の実証実験 - ICTを活用した新たなつながりづくり-	緒方 文子	福岡市社会 福祉協議会
O-4-3	大学生の食習慣と食を取り巻く環境の関連	佐々木 彩乃	筑波大学
O-4-4	COVID-19 感染拡大の影響を受けた地域の住民参加型介護予防事業と 要介護認定状況との関連	矢野 敦大	茨城県立 健康プラザ
O-4-5	自治体によるナッジの人材育成プログラム - 健康寿命延伸プランの目標達成に向けた検証 -	竹林 正樹	株式会社キャン サーズキャン

口頭発表5 (O-5-1~4) 3月6日(日) 13:20-14:00

座長：田邊 解(筑波大学)

口頭発表6 (O-6-1~4) 3月6日(日) 14:10-14:50

座長：辻 大士(筑波大学)

演題 番号	演題名	発表者	所属
O-5-1	中高年女性における Pelvic Frailty 対策の重要性	田中 喜代次	筑波大学
O-5-2	骨盤底フレイルとロコモティブシンドロームに関する一考察	辻野 和美	(株)ホリス ティックヘルス 研究会
O-5-3	両手指タッピング動作からみた高齢者の手指巧緻性の評価	大島 秀武	流通科学大 学
O-5-4	半導体機能繊維着用による自覚症状と生理検査への効果	榛沢 和彦	新潟大学
演題 番号	演題名	発表者	所属
O-6-1	高齢者がグループに参加して実践する運動・スポーツ種目と生活機能の関連：JAGES2016-2019 縦断研究	辻 大士	筑波大学
O-6-2	双方向通信によるオンライン運動教室は生活機能および精神的健康度の改善に有用である	沢田 秀司	順天堂大学
O-6-3	コロナ禍における自粛時の自主運動と施設での機器を用いた運動との違い	柳川 真美	(株)健康科 学研究所
O-6-4	Covid-19 パンデミック禍における大学生の身体活動の動向とフィジカルリテラシー教育導入の検討	樋口 倫子	明海大学

ポスター発表 (P-1~10) 3月5日 (土) ~ 13日 (日)

演題 番号	演題名	発表者	所属
P-1	パーキンソン病患者への健康支援プログラムの効果：アルゼンチンタンゴセラピーによる検討	阿部田 恭子	早稲田大学 大学院
P-2	スポーツ外傷・障害の発生に対する幼少期から現在までの生活習慣の影響	森 純菜	九州産業 大学
P-3	地域在住高齢女性に向けたスクエアステップエクササイズの短期介入が 骨密度および生活関連体力に及ぼす影響	新村 由恵	大阪国際 大学
P-4	Web を活用した運動介入プログラムの効果-若年女性におけるパイロット研究-	若葉 京良	十文字学園 女子大学
P-5	自体重レジスタンストレーニングを用いたオンライン運動教室が中高齢者の下肢の身体機能に及ぼす影響	劉 振岳	順天堂大学 大学院
P-6	日本人における身体活動量とコリバクチン産生菌の関連	二宮 友佳	医薬基盤・健康・栄養研究所
P-7	保育園保育者の身体活動量と園児の身体活動量の関係	中村 真緒	皇學館大学
P-8	新型コロナウイルス感染症流行下における高齢者の精神的健康の変化と心身の健康を保つためのコーピング行動の変化	江尻 愛美	東京都健康長寿医療センター研究所
P-9	新型コロナウイルス感染拡大下において健康増進施設を利用している地域在住高齢者のフレイル、栄養・食生活、社会参加との関連	稲山 貴代	長野県立 大学
P-10	地域在住中高齢男女における Covid-19 感染拡大期間中の体重の変化： 2019/2020 年の 24 ヶ月間連続縦断調査	綾部 誠也	岡山県立 大学

ポスター発表（P-11~20） 3月5日（土）～ 13日（日）

演題番号	演題名	発表者	所属
P-11	高齢者を対象とした遠隔健康教室における実務対応に関する実践報告	中田 翼	電気通信大学
P-12	認知症の人の家族介護者からみた情報取得ニーズとケアマネジャーへの支援の要望	馬場 みちえ	福岡大学
P-13	日本の地域在住高齢者における咬筋容積とサルコペニアとの関連	ABUDUREZAKE ABULAITI	順天堂大学 大学院
P-14	地域在住高齢者の口腔機能（体力測定会参加者における残存歯数、舌圧、オーラルディアドコキネシス）	木村 みさか	同志社女子 大学
P-15	マスクをしても苦しくない体操プログラムの提案 新型コロナ禍での実践報告	吉中 康子	京都先端科 学大学
P-16	階段の昇段方法と昇段テンポの相違が外側広筋の筋酸素動態へ及ぼす影響	小渋 徹一郎	同志社大学
P-17	足関節テーピングによるランニングエコミーの変化について： パイロットスタディ	井上 雅典	同志社大学 大学院
P-18	運動前のコーラ摂取が自転車運動における持続的パフォーマンスへ与える影響	中島 啓裕	同志社大学
P-19	低強度かつ少量の無酸素性運動が直後の有酸素性運動中の脂質酸化量に及ぼす影響	木村 奏	同志社大学
P-20	5本指靴下着用による足趾把持力およびパフォーマンスへの影響	木村 香奈	同志社大学

ポスター発表（P-21~30）3月5日（土）～ 13日（日）

演題 番号	演題名	発表者	所属
P-21	日本サッカー育成年代選手の競技力に関する研究 -京都府育成年代トップレベル選手とJリーグ育成年代選手との比較から-	松山 博明	追手門学院 大学
P-22	東京 2020 オリンピックはスポーツ・運動への興味・関心を高め、運動実践のきっかけになったか？	片山 靖富	皇學館大学
P-23	健康支援のための保健医療情報伝達：高齢者に対する健康支援の経験から	鷺尾 昌一	北九州若杉 病院
P-24	体育授業における「知識・技能評価尺度」の開発に関する基礎的研究：因子構造の検討	深田 直宏	びわこ学院 大学
P-25	体育授業における「思考力、判断力、表現力等評価尺度」の開発に関する基礎的研究：因子構造の検討	吉井 健人	育英大学
P-26	小学校高学年を対象とした体育授業評価尺度の開発に関する基礎的研究：育成を目指す3つの資質・能力の観点から	藤井 一貴	立命館大学 大学院
P-27	体育授業における「学びに向かう力、人間性等評価尺度」の開発に関する基礎的研究：因子構造の検討	小林 美咲	立命館大学 大学院
P-28	生活保護受給者における統合失調症による医療扶助の状況	谷原 真一	久留米大学
P-29	ハイリスクな母親の虐待予防に関する検討：出産前後についての SCAT を用いた質的研究	春日 由美	山口大学
P-30	試合出場機会の増加がチームに与える影響について -集団凝集性、集団効力感、部活動愛着、チーム・アイデンティフィケーションに着目して-	内波 仁志	びわこ成蹊 スポーツ大学